

高知県金融経済概況

【概 論】

高知県の景気は、一部で弱めの動きとなっているものの、全体では持ち直している。

前回の概況公表時（2月上旬）以降の県内景気を見ると、個人消費は持ち直している。観光は回復しているほか、設備投資は持ち直しの動きが続いている。一方、住宅投資と公共投資は弱めの動きとなっている。この間、製造業の生産は全体では緩やかに持ち直しているものの、一部ではなお弱めの動きとなっている。そうしたもと、労働需給面は緩やかに改善しているほか、雇用者所得は持ち直している。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症の下押し圧力が和らぐもとで、持ち直しの動きが続くとみられる。ただし、原材料価格や感染症の動向等の影響を受けて、不確実な状況が続くと考えられることから、こうした不確実性が県内の企業収益、雇用・所得等に与える影響については、引き続き注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別の動向

公共投資は、弱めの動きとなっている。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、23/2月は前年を上回った（23/2月前年比：+28.7%）。

設備投資は、持ち直しの動きが続いている。

2022年度の設備投資額（22/12月短観）は、全体では前年度を幾分下回る計画となっているが、維持更新目的やBCP・環境対策目的の投資を底堅く実施していくことが予定されている（全産業前年度比：▲3.2%）。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備の過剰感（22/12月短観）は横ばい圏内で推移している（生産・営業用設備判断D. I. <「過剰」－「不足」>、22/9月：+3→22/12月：+4）。

個人消費は、持ち直している。

大型小売店¹の販売動向は、緩やかな持ち直しが続いている。家電量販店の販売動向は、底堅く推移している。乗用車新車登録台数（23/1月前年比：+8.2%）は、供給制約の影響が残るも、なお低めの水準となっている。コンビニエンスストア、旅行取扱高は、持ち直している。

観光は、回復している。

23/1月の県内の主要観光施設への入込客数（23/1月前年比：+1.8%＜速報値＞）と主要旅館・ホテルの宿泊客数（同：+9.5%）は、ともに前年を上回った。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

23/1月の新設住宅着工戸数は、前年を下回った（23/1月前年比：▲36.8%）。

2. 生産

製造業の生産は、全体では緩やかに持ち直しているものの、一部ではなお弱めの動きとなっている。

機械は、土木工事向けを中心に緩やかな持ち直しが続いているが、一部では原材料不足の影響を引き続き強く受けている。鉄鋼は、一部でやや弱めの動きがみられるものの、全体では持ち直している。パルプ・紙・紙加工品、食料品は、一部でやや弱めの動きがみられるが、全体では横ばい圏内で推移している。窯業・土石製品は、弱めの動きとなっている。

3. 雇用・所得

労働需給は、緩やかに改善している。

23/1月の有効求人倍率は、前月より小幅に上昇した（23/1月：1.26倍）。

雇用者所得は、持ち直している。

22/12月の1人当りの現金給与総額は、前年を上回った（22/12月前年比：+2.4%＜速報値＞）。

¹ 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

4. 物価

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）は、生鮮食品を除く食料等が前年を上回ったため、前年比プラスとなった（23/1月前年比：+2.8%）。

5. 企業倒産

企業倒産は、低めの水準で推移している（23/2月：倒産件数0件<前年2件、負債総額30百万円>）。

6. 金融

実質預金（銀行、信金、信組）は、前年を上回っている（23/1月末残前年比：+2.3%）。

貸出（同）は、前年を上回っている（同：+0.2%）。

貸出約定平均金利（銀行、信金）は、前月を上回っている（23/1月：1.228%）。

以 上

【本文中の使用計数等の出所】

- ・ 乗用車新車登録台数：四国運輸局「自動車保有台数と販売状況速報」、主要観光施設への入込客数：高知県「月別観光施設利用実績」、新設住宅着工戸数：国土交通省「建築着工統計調査報告」、公共工事請負金額：西日本建設業保証株式会社「高知県内の公共工事動向」、有効求人倍率：厚生労働省「一般職業紹介状況」、現金給与総額：高知県「毎月勤労統計調査地方調査」、消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）：総務省「消費者物価指数」、企業倒産：東京商工リサーチ「高知県企業倒産状況」。
- ・ その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。
- ・ なお、利用統計は公表月によって異なる。